

今日出会った野鳥

2008年1月10日(土)天候 晴、雨、雪

場所 神鉄「鈴蘭台」 - 石井ダム - 烏原水源地 - 石井町

No.	種名	チェック	No.	種名	チェック
1	カイツブリ		31	カワガラス	
2	カワウ		32	ルリビタキ	
3	ダイサギ		33	ジョウビタキ	
4	コサギ		34	イソヒヨドリ	
5	オシドリ		35	トラツグミ	
6	マガモ		36	シロハラ	
7	カルガモ		37	ツグミ	
8	コガモ		38	ウグイス	
9	ヒドリガモ		39	キクイタダキ	
10	オナガガモ		40	エナガ	
11	ハシビロガモ		41	ヒガラ	
12	ホシハジロ		42	ヤマガラ	
13	キンクロハジロ		43	シジュウカラ	
14	ミサゴ		44	メジロ	
15	トビ		45	ホオジロ	
16	オオタカ		46	ミヤマホオジロ	
17	ハイタカ		47	アオジ	
18	ノスリ		48	カワラヒワ	
19	ハヤブサ		49	マヒワ	
20	キジバト		50	ベニマシコ	
21	アオバト		51	イカル	
22	カワセミ		52	シメ	
23	アオゲラ		53	スズメ	
24	アカゲラ		54	ムクドリ	
25	コゲラ		55	カケス	
26	キセキレイ		56	ハシボソガラス	
27	ハクセキレイ		57	ハシブトガラス	
28	セグロセキレイ		58	アオサギ	
29	ヒヨドリ		59		
30	モズ		60	(ソウシチョウ)	()

確認種数 32種(+ ソウシチョウ)

特記事項 晴れたり雨、雪で不思議な天候だった。

そろそろバードウォッチングでもしてみよう

石井ダム・烏原貯水池

留鳥・冬鳥との出会い

2009.1.10(土)



主催 兵庫県山岳連盟 案内 日本野鳥の会 兵庫県支部 溝淵・福原

1. 野鳥とは

自然にあるがままに暮らしている鳥のことを云います。
 もともと野鳥だったけど、人が飼うようになった鳥を「飼い鳥」「飼育鳥」
 飼っている鳥が逃げたか、逃がした鳥を「籠抜けの鳥」
 もともとそこにはいない鳥が何かの理由で移り住んだ鳥を「帰化鳥」と
 いい「野鳥」と区別します。
 ただし、スズメのように弥生時代に稲作と同時に日本に帰化した鳥は
 野鳥として扱っています。(明確な決まりはありません)

これは

生息環境を観察する上で大切なことです

2. 野鳥のことは、まだまだわからない!

豊かな自然環境がないと生きていけない野鳥や、人の生活を利用して暮らしている野鳥。
 都市でもよく見かける野鳥など、さまざまです。
 環境の悪化などにより、野鳥に関心をもつ人も年々増加し、今まで
 わからなかったことがわかってきたりしていますが、まだまだ野鳥
 のことはわからないことが多い。

3. 生物の種類は?

地球上にくらす生物の種類は	約 1 4 6 万種
そのうち	動物 約 1 1 0 万種
	植物 約 3 0 万種
	細菌類 約 6 万種

4. 野鳥の種類は?

世界では	約 9,000種 (陸鳥 90% 水鳥 10%)
日本での記録は	約 600種 (陸鳥 49% 水鳥 51%)

兵庫県内での記録は	約 350種
神戸市内での記録は	約 290種
六甲山での記録は	約 150種

5. 野鳥の名前(種名)

日本で野鳥の名前(種名)を云うときの共通の言葉を「標準和名」といい、カタカナで書きます。
 世界共通の名前を「学名」といいラテン語で斜体で表記します。

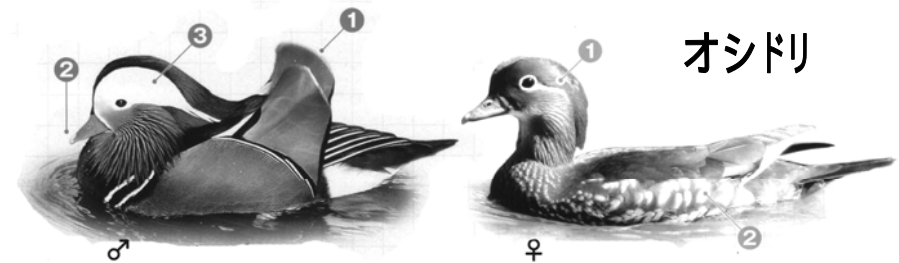
(例)	標準和名	地方名	英名	学名
	セグロセキレイ	石たたき	Japanese Wagtail	<i>Motacilla grandis</i>

6. 日本だけに生息する野鳥

(日本の固有種) 13種 (内5種絶滅)

- | | |
|----------------|-----------------|
| ヤマドリ | ヤンバルクイナ |
| アマミヤマシギ | リュウキュウカラスバト(絶滅) |
| オガサワラカラスバト(絶滅) | ミヤコショウビン(絶滅) |
| アオゲラ | ノグチゲラ |
| オガサワラガビチョウ(絶滅) | アカコッコ |
| メグロ | オガサワラマシコ(絶滅) |
| ルリカケス | |

今日の鳥(野鳥2種)



全長41-47cm 撮影●坂東俊輝
 ①帆のように立つ三列風切「銀杏羽」
 ②赤い嘴
 ③まが玉形の白い模様

全長41-47cm 撮影●坂東俊輝
 ①眼の周りから後頭部に向かって白い斑
 ②脇腹は黒褐色に淡褐色の大きな斑

ジョウビタキ

全長14cm 撮影○福原洋一
 冬鳥としてほぼ全国に渡来する。北海道や積雪の多いところでは少ない。渡りの時期には多く見られる。渡来直後は高い場所がよく鳴き、雌雄に関係なく1羽でなわばりをもって生活し、昆虫類やクモ類、草木の種子や実などを食べる。
 六甲山では10月頃渡来し、翌年の4月頃には渡去する。地鳴きはヒッヒッまたはカッカッ

